

Z-24

日本産地衣類タラヨウノビッコロマ (*Byssoloma subdiscordans*) の分類学的再検討

○宮澤研人¹⁾・大村嘉人²⁾・茶木桃華³⁾・山岡裕一⁴⁾ (¹⁾筑波大院生物資源；²⁾国立科学博物館；³⁾広島市；⁴⁾筑波大生命環境系)

Taxonomic re-examination of *Byssoloma subdiscordans* in Japan by K. Miyazawa¹⁾, Y. Ohmura²⁾, M. Chaki³⁾, Y. Yamaoka⁴⁾ (¹⁾ Master's Program in Agro-Bioresources Science and Technology, University of Tsukuba; ²⁾ National Museum of Nature and Science; ³⁾ Hiroshima-City; ⁴⁾ Faculty of Life and Environmental Sciences, University of Tsukuba)

日本産ワタヘリゴケ属 (*Byssoloma*, ワタヘリゴケ科) は、これまで形態と一部の地衣成分のみに基づいた分類により 6 種が報告されてきた。演者らは共生菌や共生藻の分子データを加味した本属の分類学的再検討を行っているが、新たな知見が得られたので報告する。本属の 1 種であるタラヨウノビッコロマ (*B. subdiscordans*) は沖縄から千葉にかけて分布すると報告されている。ところが、樹皮上のもものからは地衣成分のノルスチクチン酸 (Nor) が検出されているが、生葉上からは Nor は確認されていない。地衣成分の差異は地衣類の種の識別形質となる場合があるため、日本産 *B. subdiscordans* は Nor の有無や生態の違いを含めて詳細に再検討をする必要があると考えられた。演者らは、形態的に *B. subdiscordans* と同定される 20 点の標本を沖縄、広島、静岡、千葉から採集し、詳細な形態、地衣成分、分子データ (共生菌は nrITS と mtSSU, 共生藻は rbcL) および生態的特性について検討した。その結果、共生菌の分子系統樹によって見出された 3 つのクレードは基物と地衣体の形態、地衣成分、共生藻の違いに関連しており、日本産 *B. subdiscordans* は少なくとも次の 3 種からなることが示唆された。すなわち、第一グループは樹皮および金属製人工物上に生育し、地衣体は疣状、灰緑色；地衣成分は Nor (主成分)、未同定成分 US1, US2, US3 を含む；共生藻は A・B 系統。第二グループは金属製人工物上に生育し、地衣体は平滑から疣状、白から灰緑色；地衣成分は Nor (微量)、未同定成分 US1, US4 を含む；共生藻は A 系統。第三グループは、生葉上に生育し、地衣体は平滑、灰緑色；地衣成分は Nor (微量)、未同定成分 US5 を含む；共生藻は C 系統。これらの分類学的所属については *B. subdiscordans* のタイプ標本や関連種との比較検討により決定していく予定である。